

一 般 演 題 抄 錄

8. 人工弁置換術後慢性溶血の腎機能におよぼす影響

鎌田 典彦 奥 秀喬 城谷 均

近畿大学医学部心臓外科学教室

われわれは今までに人工弁置換術後の慢性溶血に関し報告を行ってきた。それによると臨床検査上では赤血球由来の LDH である LDH 分画 1・2・3 の上昇, 血清ハプトグロブリンの低下・消失が見られた。しかし溶血によるヘモグロビン, ヘマトクリットの低下はなく貧血を呈する症例はなかった。人工弁置換術後は遊離ヘモグロビンとハプトグロブリンとの結合が飽和状態にある subclinical な溶血が継続していると結論してきた。今回われわれはこの subclinical な慢性溶血が生体に与える影響, 特に溶血の影響を最も受けやすい腎機能への影響に関し検討を行ったので報告した。

対 象

対象は当科外来で追跡可能であった SJM 弁による僧帽弁置換 (MVR) 56例, 大動脈弁置換 (AVR) 25例, 僧帽弁・大動脈弁置換 (BVR) 30例, 対照群として僧帽弁交連切開術 (OMC) 6例の計117例であった。全例血栓塞栓症, 弁機能不全, paravalvular leakage の既往はない。検討したパラメーターは赤血球数, 血色素量, ヘマトクリット値, 網状赤血球数, LDH 分画 (LDH 1・2・3), 血清ハプトグロ

ブリン, 血中 BUN, Cre, β_2 -MG であった。

結 果

溶血の指標である LDH 分画 1・2・3 の総和は BVR 群で MVR, AVR, OMC 群より有意に高値であった ($P < 0.05$)。血清ハプトグロブリンは MVR, AVR, BVR 群では4例のみ検出されただけで残り107例 (96%) は検出されなかった。しかし人工弁を用いない OMC 群では全例検出された。各群の血中 BUN, Cre, β_2 -MG を比較すると BVR 群で β_2 -MG の有意な上昇を認めた ($P < 0.05$)。この β_2 -MG の上昇と溶血 (LDH) との間には有意な関係はなかった。また術後経過月数と β_2 -MG との間にも有意な関係はなかった。さらに個々の症例に関して5年間の β_2 -MG の推移でも有意な上昇は認められなかった。

結 論

SJM 弁による人工弁置換術後は subclinical な慢性溶血が生じている。しかしこの慢性溶血の生体とくに腎機能への影響はなく, 現段階では人工弁置換術後慢性溶血は臨床上問題ないと考えられた。